

平成 25 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果（日本海）について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、平成25年は7月17日、8月7日、9月3日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いてつがる市沖8点で調査を行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると0～539尾/1,000m²の範囲にありました（表1）。採捕したヒラメの全長組成は7月17日に水深5、10mで30mm台、8月7日に水深5mで40～60mm台、10mで40～50mm台、9月3日に水深5mで60～80mm台、水深10mで70～90mm台が主体となっていました（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成25年は305であり、近年では高水準であった平成23年（着底指数713）には及ばないものの比較的高い水準でした（図3）。これまでの調査結果から、日本海では着底指数が高かった年の翌々年に2歳魚の漁獲尾数が多くなる傾向があることから、2年後に漁獲対象となる本年生まれの資源は高水準であろうと考えられます。

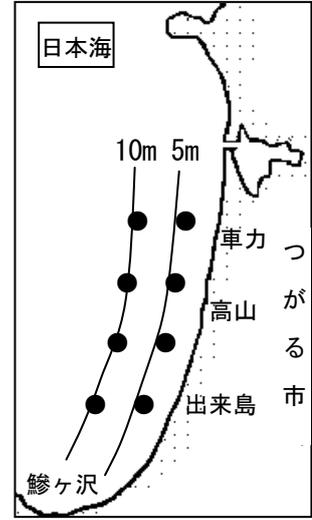


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海	水深	5m				10m				(尾/1,000m ²)		
		調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	5m	10m
											平均	平均
	2013/7/17	69	181	107	126	70	120	64	25	119	77	
	2013/8/7	167	539	279	218	227	150	114	163	305	163	
	2013/9/3	52	62	39	19	22	13	3	0	43	9	

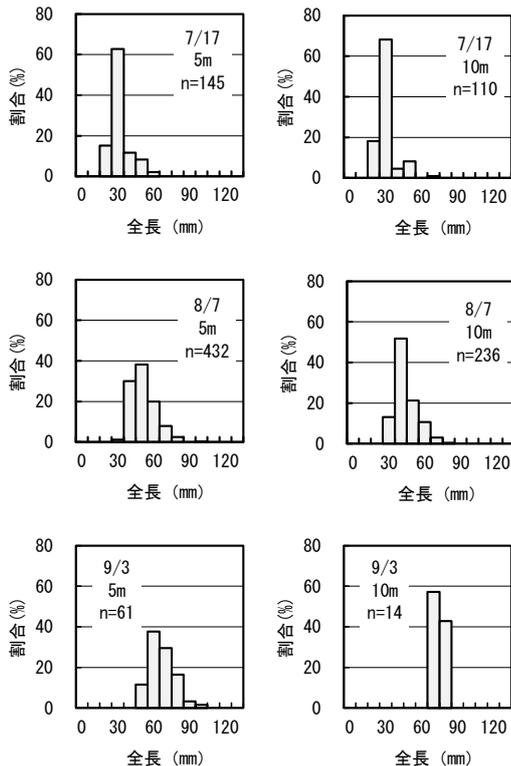


図2 採捕したヒラメ稚魚の全長組成

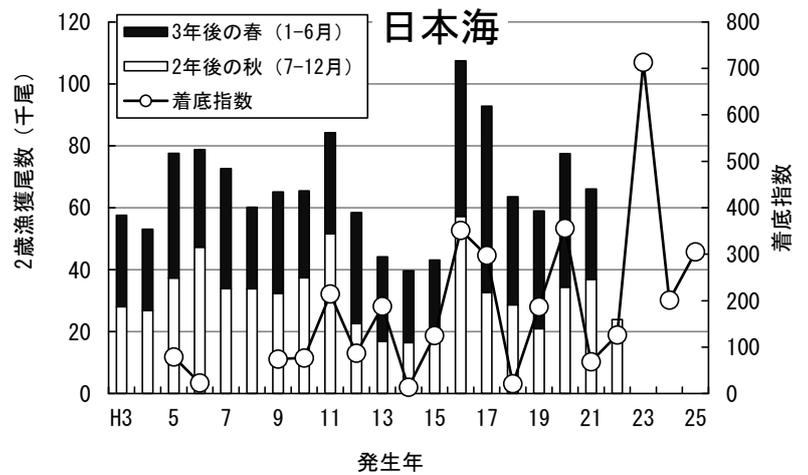


図3 日本海のヒラメ着底指数と2歳魚漁獲尾数の推移